

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

〒162-0045
東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田 FIRST 3階
Tel: 03-5286-6123(代表) Fax: 03-5286-6124
E-mail: office@tokyo.msf.org

www.msf.or.jp

メールマガジンのご登録はこちらから

国境なき医師団 メルマガ 検索



国境なき医師団の最新の活動をご覧ください。



活動 報告書

2021年度版(1月→12月)

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

Activity Report 2021

January-December 2021
Médecins Sans Frontières Japon





国境なき医師団とは

About MSF

医療援助を第一に

国境なき医師団(MSF)は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとするスタッフが、世界約90の国と地域で援助活動を行っています(2020年実績)。1971年にフランスで設立されました。

独立・中立・公平

MSFは誰からも干渉や制限を受けることなく、助けを必要としている人びとの元へ向かい、人種や政治、宗教にかかわらず、分け隔てなく援助を届けます。

世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにすることもあります。MSFはそのようなとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言します。

国境なき医師団憲章

The Charter of MSF

国境なき医師団は苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に、中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアはその職業倫理を尊び、すべての政治的、経済的、宗教的権力から完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアはその任務の危険を認識し、国境なき医師団が提供できる以外には自らに対していかなる補償も求めない。

Contents

国境なき医師団とは／国境なき医師団憲章 About MSF / The Charter of MSF	3	財務報告 Financial Reports	12
会長・事務局長からのあいさつ Message from the President & the General Director	5	謝辞 Acknowledgements	16
海外派遣スタッフ一覧 Field Staff Assigned by MSF Japan	6	企業・団体・個人のご支援方法・事例 How to Support MSF	18
活動地からの声 Voice from the Field	8	MSF日本の活動から Updates of MSF Japan	21
財務ハイライト Financial Highlights	10	【MSFワールドワイド】 2020年 活動概況 MSF Worldwide Facts & Figures	22

洪水に見舞われた南スーダン・ベンティウ郊外の国内避難民キャンプで、カヌーをこぐ男性。© Njiiri Karago/MSF

表紙：武力衝突が激化したエチオピア北部ティグレ州で、MSFの移動診療所に並び診察を待つ女性と子どもたち。© Igor Barbero/MSF

裏表紙：8月に発生したハイチ地震で負傷した患者に寄り添うMSFスタッフ。MSFは被災した各都市で緊急援助活動を展開した。© Pierre Fromentin/MSF



設立から50年を迎えた節目の年、独立・中立・公平の信念を守り継ぎながら、世界中で続く紛争や貧困、自然災害などの人道危機に対応しました。

国境なき医師団(MSF)スタッフを代表して、2021年に賜りました温かいご支援に心より御礼申し上げ、活動のご報告をいたします。

昨年、MSFは1971年12月にフランスで設立されてから50年の節目を迎えました。1967年から2年半に及び内戦が続いたナイジェリアの「ビアフラ戦争」で、多くの市民が命の危機や苦境にさらされる現実を目撃した医師たちは、非道な事態を公に非難することを決断。MSFは、「声を上げる」医療・人道援助団体として設立されました。それ以降、MSFは国境を越えて医療を届け、また、活動地で目撃した人道危機や非人道的な状況を証言し続けてきました。

それから50年。2021年はシリアで「今世紀最悪の人道危機」と称される内戦が10年に及び、ミャンマーでは2月に軍事クーデターが発生、アフガニスタンでは政権崩壊が起こるなど、まさに激動の年でした。

コンゴ民主共和国や中央アフリカ共和国などでも武力紛争がやまず、エチオピアでは北部ティグレ州で衝突が激化し、多くの市民が避難を強いられています。また、マラリアやはしかといった感染症や、深刻な食料不足による栄養失調によって、命を落とす子どもたちも大勢いました。避難生活を余儀なくされる難民・国内避難民の数は過去最多となり、気候変動の影響もあって世界各地で自然災害が絶えません。

このように世界の情勢はさまざまに変化し、私たちの医療・人道援助を必要とする問題の規模や数は、この50年、残念ながら減るどころか増える一方です。

そうした中、2020年から続く新型コロナウイルス感染症への対応では、これまで世界70を超える国と地域の人びとに医療・人道援助を届けることができました。昨年10月に受付を終了した「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」では、日本国内における資金調達目標額2380万ユーロ(約29億円)を、延べ13万人の個人・法人支援者さまからのご支援により達成することができました。皆さまご厚情にスタッフ一同心より感謝申し上げます。

多額の公的資金を受けて研究開発されている新型コロナウイルスのワクチンや治療薬が、知的財産権によって独占されることなく、「世界の公共財」としてあらゆる地域の人びとに行き渡るよう、引き続き強く社会に訴えてまいります。

MSFは民間からのご寄付に支えられ、独立・中立・公平な立場で援助を提供するという変わらない理念のもと、支援を必要とする人びとに寄り添い、一人でも多くの命を守れるよう全力で活動を続けてまいります。



国境なき医師団日本
会長
中嶋 優子
Yuko Nakajima MD
President
Médecins Sans Frontières Japon

中嶋 優子



国境なき医師団日本
前会長
(2020年3月～2022年3月)
久留宮 隆
Takashi Kurumiya MD
Former President
Médecins Sans Frontières Japon

久留宮 隆



国境なき医師団日本
事務局長
村田 慎二郎
Shinjiro Murata
General Director
Médecins Sans Frontières Japon

村田 慎二郎

2021年、国境なき医師団(MSF)日本からは、90人(延べ106回)の、31の国と地域への派遣が決まりました。



長引く紛争の影響を受けた人びとに心のケアを提供【バレスチナ/臨床心理士】

ハイチ
ディディエ・ジャック・アサル(ロジスティシャン)
岩元 祐太(医療チームリーダー)
松本 明子(副医療コーディネーター)



避難民キャンプで分娩介助などの母子ケアを提供【スーダン/助産師】

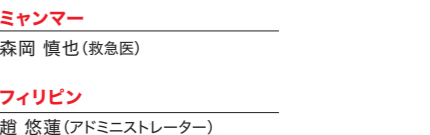
- レバノン
小篠 哲子(助産師)
バレスチナ
福島 正樹(臨床心理士) 佐藤 太郎(看護師)
西岡 憲吾(麻酔科医)
リビア
小島 穂奈(助産師) 佐藤 葉月(アドミニストレーター)
チャド
大塚 千亜希(アドミニストレーター)
ナイジェリア
團野 桂(疫学専門家)
コートジボワール
今城 大輔(アドミニストレーター)
熊澤 ゆり(オペレーション・サポート)
谷口 博子(オペレーション・サポート)
シエラレオネ
金子 将規(メカニカル・ロジスティシャン)
リベリア
シリル・カップバイ(活動責任者)
越部 真(サブプライ・ロジスティシャン)
近江谷 健介(ロジスティシャン)
辻 直行(アドミニストレーター)
カメルーン
小杉 郁子(外科医)
前田 健太(サブプライ・ロジスティシャン)
佐藤 聖子(麻酔科医)
中央アフリカ共和国
李 亘(フライト・コーディネーター) 宮家 佐知子(ヘルスプロモーター)
南スーダン
萩原 健(活動責任者) 佐藤 葉月(アドミニストレーター) 吉田 文(副医療コーディネーター)
平山 亮子(手術室看護師) 土岐 翠(助産師) ルスラン・ザリポフ(ロジスティシャン)
北川 順子(アドミニストレーター) ターナー 普江(薬剤師)
三浦 由紀子(麻酔科医) パヴェル・ウサニン(外科医)
三好 康広(産婦人科医) 矢野 喜一(麻酔科医)
中野 悠平(外科医) 吉田 幸治(アドミニストレーター)
佐久間 淳(外科医) 吉田 ゆかり(看護師)
コンゴ民主共和国
岩元 祐太(疫学専門家) 村上 千佳(助産師)
小坂 真理子(サブプライ・ロジスティシャン) 村元 菜穂(ロジスティシャン)
南アフリカ共和国
村上 大樹(外科医)

- シリア
宋 正実(サブプライ・ロジスティシャン)
高橋 央(医療チームリーダー)
アルメニア
アンナ・カツィオ(臨床心理士)
ビクトリア・ティモフェエワ(アドミニストレーター)
イラク
大竹 優子(手術室看護師)
末藤 千翔(プロジェクト・コーディネーター)
アフガニスタン
アーシャ・ファルザリエワ(アドミニストレーター)
福岡 一美(手術室看護師) 白川 優子(手術室看護師)
岩川 真由美(小児科医) 植田 佳史(ロジスティシャン)
倉之段 千恵(手術室看護師)※同国2回
佐藤 真史(手術室看護師)
イラン
田村 真理子(アドミニストレーター)
バキスタン
畑井 珠恵(アドミニストレーター) 下山 由華(プロジェクト・コーディネーター)
畑井 智行(看護師)
イエメン
遠藤 大(麻酔科医) 三輪 玲亜(産婦人科医) 滝上 隆一(外科医)
濱川 伯榮(産婦人科医) 本川 才希子(手術室看護師) 辻 綾子(アドミニストレーター)※同国2回
小林 信久(トレーニングファシリテーター) 村上 大樹(外科医) 浦部 優子(小児科医)
倉之段 千恵(手術室看護師) 関 聡志(外科医) 山住 邦夫(建築士)
真山 剛(救急医)
バングラデシュ
堀 正貴(サブプライ・ロジスティシャン) 宮澤 明子(サブプライ・ロジスティシャン)
前田 健太(サブプライ・ロジスティシャン) 小笠 美咲(助産師)
ミャンマー
森岡 慎也(救急医)
フィリピン
趙 悠蓮(アドミニストレーター)
スーダン
萩原 健(活動責任者) 丸井 和子(ロジスティック・コーディネーター)
小篠 哲子(助産師) 落合 厚彦(副活動責任者)
セラフィマ・コシンスカヤ(財務・人事コーディネーター) 大竹 優子(手術室看護師)
エチオピア
倉之段 千恵(手術室看護師) アントン・ラソレンコ(ロジスティシャン)
間瀬 健次(外科医) 佐藤 功大(薬剤師)
松田 隆行(ロジスティシャン) 土岐 翠(助産師)
本川 才希子(手術室看護師) 植田 佳史(ロジスティシャン)
ケニア
荒木 京子(臨床心理士) 小口 隼人(プロダクト・コーディネーター)
中池 ともみ(看護師) 山崎 さつき(救急医)
タンザニア
アサニ 美里(医療チームリーダー)
マラウイ
佐藤 功大(薬剤師) 鈴木 美奈(産婦人科医)
ジンバブエ
上西 里菜子(プロジェクト・コーディネーター)

- ロシア
アーシャ・ファルザリエワ(アドミニストレーター)
インドネシア
三輪 玲亜(産婦人科医) 滝上 隆一(外科医)
本川 才希子(手術室看護師) 辻 綾子(アドミニストレーター)※同国2回
村上 大樹(外科医) 浦部 優子(小児科医)
関 聡志(外科医) 山住 邦夫(建築士)
バングラデシュ
堀 正貴(サブプライ・ロジスティシャン) 宮澤 明子(サブプライ・ロジスティシャン)
前田 健太(サブプライ・ロジスティシャン) 小笠 美咲(助産師)

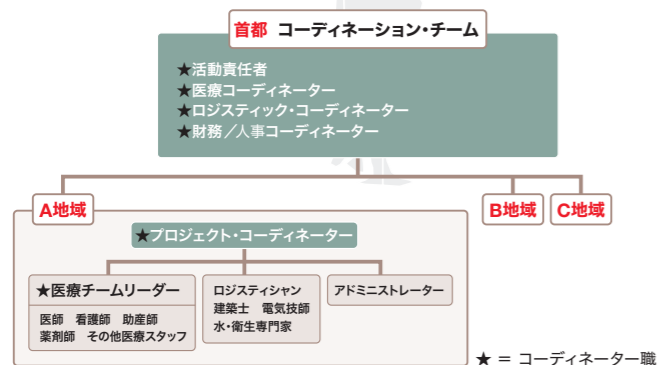


紛争激化による病室増設などの資金を管理【イエメン/アドミニストレーター】



インフラ整備やセキュリティ管理を担当【エチオピア/ロジスティシャン】

MSF 現地活動組織図



MSF日本 職種別派遣回数

Table with 4 columns: Role, Number of assignments, Number of staff, and Total assignments. Roles include Doctor, Logistics, Nurse, etc.

2021年度の初回派遣割合 約22% (20人)

Legend for the map: Dark green for countries where staff were dispatched from Japan, light green for other MSF activity areas, and a boat icon for refugee search and rescue activities.

※リストには2021年に派遣が決まった人を記載しています。「その他のMSFの活動国・地域」は、2021年3月末日時点の情報です。最新情報は2022年7月に発表予定のMSF全体の活動を網羅した『国際版活動報告書2021』をご覧ください。

海外派遣スタッフを募集しています。MSF日本では、世界各地で活動を行う医療従事者(医師、薬剤師、臨床心理士、看護師など)および非医療従事者(ロジスティシャン、アドミニストレーターなど)を常時募集しています。お気軽にお問い合わせください。 www.msf.or.jp/work/expat/



日本から派遣された海外派遣スタッフ2人が、
2021年の活動を報告します。

常に足りないベッド数 栄養失調の子どもたちの 命と向き合った日々

いわかわ まゆみ
岩川 真由美(小児科医/アフガニスタン)

2021年9月から約3カ月間、アフガニスタン西部ヘラート州の、入院栄養治療センターで小児科医として活動しました。武装勢力タリバンが統治を始めた直後で、多くの地元の医師が国外へ避難し、各国からの資金援助も止まり、各地で病院が閉鎖されていました。そんな中、急増していたのは子どもたちの栄養失調です。スタッフが足りておらず、急ぎょ活動に向かうことになりました。

病院には100人以上の患者さんがいましたが、当初は43床のベッドしかなかったため、2〜3人で1つのベッドに寝かせていました。子どもたちの手足は枯れ枝のように細くなって、目が落ちくぼみ、皮膚がカサカサに乾いており、中には意識がない状態の子どももいました。本当はどの子も同時に助けたかったのですが、医師はいつも不足しており、緊急度に応じた優先順位を決めて子どもの治療に当たらなければならないときもあ

りました。「ちょっと待ってね、ごめんね」と思いながら必死に治療を続けましたが、助からなかった命もあり、「3人医師がいたら、3人同時に治療ができたのに」と、やりきれない思いでした。治療中に見ないようにしても、少しずつ死亡カルテの束が厚くなっていくのが分かりました。

現地では、ベテランの医師が国外に逃れるなどして、若い医師が育っていない状態でした。そのため、より多くの患者さんの命を助けるためには、人材育成も大事な任務でした。アフガニスタンの医師たちに、これからの小児医療を担ってもらえるように、患者さんのベッドサイドと一緒に立ち、治療をしながら教えていきました。

医療援助の結果、入院栄養治療センターでは当初およそ20%だった子どもの死亡率が10%に減りましたが、たくさんの子どもたちが亡くなっていくのは、つらかったです。こんな私たちに力を与えてくれたのは元気になって退院していく子どもたちでした。患者さんとお両親の笑顔を見ることが活動中の心の支えになりました。

ヒジャブ姿の岩川。この服装で子どもたちの治療に当たっていた。



© MSF



© Sandra Calligaro

栄養強化ミルクを飲む赤ちゃん。岩川の活動した病院では栄養失調の子どもたちの受け入れが続いた。

アフガニスタン

40年余りにわたって紛争と情勢不安が続き、経済とインフラは荒廃、多くの人びとが人道援助に頼って生活を送ってきた。2021年の武装勢力タリバンの全土掌握後も、MSFは外科や産科の対応、栄養失調児の治療などを継続している。



難民・移民への医療援助や 薬局の立ち上げ 薬剤師として初めての経験

さとう こうた
佐藤 功大(薬剤師/リビア)

地中海に面した国、リビアで薬剤師として活動しました。紛争などから逃れるためにアフリカや中東諸国からリビアを経由し、海を渡って欧州を目指す人びとが後を絶ちません。MSFは、その途中で沿岸警備隊に強制的に連れ戻され、捕らえられている難民・移民に医療を提供しています。私が派遣されたミスラタという町にある収容センターでは、MSFが医療援助を行う唯一の団体として、週2回訪問診療を行っていました。私の役割は、必要な薬を訪問診療のチームに渡すことでした。収容センターの環境は劣悪で、皮膚病や栄養失調を患う人も少なくありません。みな満足な食事を取れていないため、全員にバナナを渡し、低栄養の人には栄養治療食を提供しました。

リビアでの医療援助のニーズは高く、さらに2カ所で新たに活動を始めるために薬局を立ち上げることになりました。ゼロから薬局を作るのは、私にとって初めての経験です。「どのくら

いの広さが必要?」「棚はいくつ用意する?」「鍵付きの棚は?」など、図面をもとに、スタッフと話し合いながら決めていきました。薬の在庫を管理するシステムの導入や、看護師に薬の出し入れの方法の指導も行いました。意識したのは、薬剤師以外のスタッフにも分かりやすいしくみにすることです。薬局が完成して薬が並べられた時は、本当にうれしかったです。

必要な薬を患者さんに届けることができるのは、多くの方からの寄付のおかげです。だからこそ、医薬品を決して無駄にははいけないと考えています。複数の医療施設の間で在庫量を共有し、薬を有効期限内に使えるよう協力しました。また、業務計画や薬の到着予定をホワイトボードで共有し、発注ミスなどが起こらないよう工夫しました。

今回がMSFの活動への初めての参加で、出発前は自分が海外の現場で役に立てるだろうかと不安でした。しかし約9カ月間、現地スタッフや世界各地からのスタッフと一緒に活動する中で大きな刺激を受け、海外援助を行うことに誇りを感じるようになりました。

MSFの薬局にて、ベテランの薬剤師の同僚と。



© MSF



© Jérôme Tubiana/MSF

ジントンの収容センターで過ごす人びと(2019年撮影)

リビア

アフリカや中東諸国から欧州へ渡る移民・難民の渡航拠点となっている一方、密航業者に拘束され、収容先で政府に拷問を受ける人が後を絶たない。MSFは収容センターで結核を含めた医療の提供や心のケアを行っている。



国境なき医師団(MSF)日本の2021年度の総収入は合計119.3億円となり、前年比で14.0%減少しました。このうち、個人および法人支援者など民間からの寄付は111.7億円となり、前年比で14.4%減少となりました。総支出は前年比で12.9%減少した119.2億円となりました。このうち援助活動費用に当たる「ソーシャル・ミッション費」には、前年比で14.4%減少した94.9億円を計上しました。最終収支は0.1億円の余剰となり、剰余金の期末残高は11.9億円となりました。*

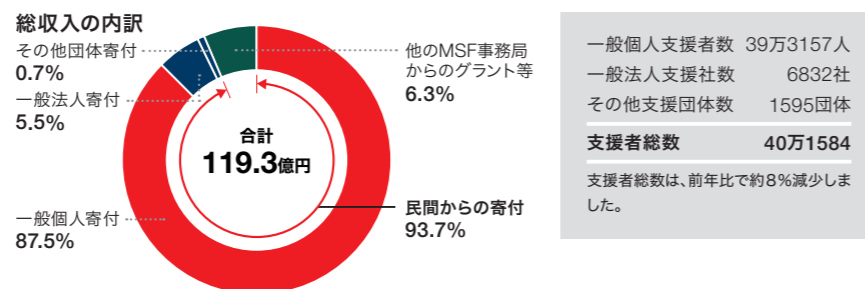
2021年度の総収入・総支出・支援者数はいずれも前年比減となりましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動した国と地域が増加し、より多くの寄付を募り、活動地へ送金したことが関連しています。

2020年度から引き続いて、2021年度も「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」に多くの寄付をいただきました。同寄付は一般寄付と合わせて新型コロナウイルス感染症対応および関連する活動に充当しました(詳細は21ページ)。

今後とも、この財務報告を通し、透明性のある説明責任に努めてまいります。

1. 総収入(経常収益)は119.3億円(前年比14.0%減)

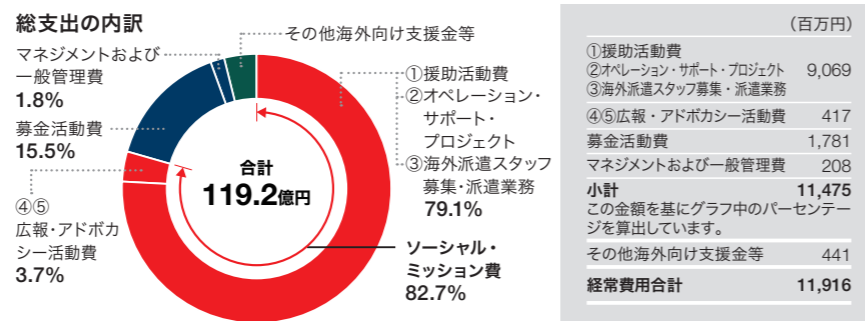
総収入の内訳は、民間からの寄付収入が111.7億円。他に、MSF韓国からのグラントやその他の収入が7.6億円となりました。なお、支援者数の内訳は、右記のとおりです。



一般個人支援者数 39万3157人
一般法人支援社数 6832社
その他支援団体数 1595団体
支援者総数 40万1584
支援者総数は、前年比で約8%減少しました。

2. 総支出(経常費用)は119.2億円(前年比12.9%減)

総支出内訳は、右図のとおりです。援助活動費、オペレーション・サポート・プロジェクト、海外派遣スタッフ募集・派遣業務、広報・アドボカシー活動費を合わせた、ソーシャル・ミッション費は前年比で14.4%減少した計94.9億円となりました。ソーシャル・ミッション・レシオとしては82.7%になりました。



(百万円)
① 援助活動費
② オペレーション・サポート・プロジェクト 9,069
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務
④⑤ 広報・アドボカシー活動費 417
募金活動費 1,781
マネジメントおよび一般管理費 208
小計 11,475
この金額を基にグラフ中のパーセンテージを算出しています。
その他海外向け支援金等 441
経常費用合計 11,916

詳細は、12ページの「主要財務諸表、正味財産増減計算書」をご参照ください。

ソーシャル・ミッションとは

MSFでは、「ソーシャル・ミッション」という言葉を「人道援助活動」という意味で使用しています。ソーシャル・ミッション・レシオとは、「人道援助活動」費用が費用全体に占める比率のことで、「皆さまからお預かりした資金を、いかに医療・人道援助活動へ優先して充当しているか」を評価する尺度として使っています。

3. 人道援助プログラム支援金は総額88.6億円(前年比15.8%減)

MSF日本は2021年度において、資金配分協定RSA-4(the 4th MSF Resource Sharing Agreement)に基づき、全てのオペレーション組織*2(MSFフランス、MSFスペイン、MSFスイス、MSFオランダ、MSFベルギー、MSF WaCA)に対し、総額88.6億円の支援金を配分しました。

4. 監査体制について

MSF日本では、会計および業務全体に対して監事による監査(右参照)とともに、外部の監査法人(あずさ監査法人)に依頼して、日本の会計監査を受けています。ならびに、スイス会計基準で作成されているMSF国際版財務報告書のうち、日本の部分に関しても同法人によるスイス会計基準の監査を受けています。

監事監査報告書	2022年3月10日
特定非営利活動法人国境なき医師団日本 会長 大塚 隆 監事 Richard SEBEL	
私は、監事として、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人、国境なき医師団日本の2021年度(2021年1月1日から2021年12月31日まで)に関して、詳細を行います。	
1. 評価方法及びその内容 (1) 会計について 私は、理事会その他の重要な会議に出席し、会計役員及びファイナンス委員会からの財務管理状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、適正な財務管理が実施されているかを確認しました。さらに、独立監査人が独立の立場を保持し、適切な監査を実施しているかを確認すると共に、その監査の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。	
(2) 業務について 私は、理事会の業務執行に関するプロセスについては、2021年度中の理事会その他の重要な会議に出席し、理事会及び職員からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁事項などを監視し、業務執行の正当性を監視しました。	
2. 監査の結果 (1) 会計について 私は、独立監査人の監査方法及び結果は、報告であると認め、上記の期間に係る計算書、特定非営利活動法人国境なき医師団日本の2021年12月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況および利益剰余金の財政状況を適正に表明しているものと認めます。	
(2) 業務について 私は、理事会及び理事その他の職務執行は適切であり、不正行為または誤りももたらさず、他の法令に違反する重大な事象はないと認めます。	
附記	

*1 MSF日本は基本方針として、地震などの自然災害による緊急援助といった不測の資金需要に備えるため、剰余金を留保しています。

*2 フランス、スイス、スペイン、ベルギー、オランダと、コートジボワールに設置。世界各地のプログラムを運営管理し、チームを編成・派遣する。

付表1. MSF日本による2021年度の人道援助プログラム支援金の配分先

MSF日本が2021年度に拠出した人道援助プログラム支援金88.6億円は、オペレーション組織を通じて39の国と地域の各プログラムで役立てられました。

国/地域	金額(百万円)	2021年度の主要プログラム例 (下記プログラム例のほかに、各地で新型コロナウイルス感染症への対応も行いました)
アフリカ		
ナイジェリア	919.0	暴力・性暴力被害者支援/母子保健/栄養失調/コレラ
南スーダン	559.2	紛争による負傷者治療/難民・国内避難民支援/母子保健/洪水緊急援助
中央アフリカ共和国	526.3	暴力・性暴力被害者支援/栄養失調/マラリア/はしか
ニジェール	471.4	小児科/栄養失調/マラリア/難民・国内避難民支援
ソマリア・ソマリランド	461.8	小児科/栄養失調/結核/はしか
マリ	420.0	紛争による負傷者治療/基礎医療/心のケア
ケニア	303.3	性暴力被害者支援/結核/HIV/エイズ
リベリア	215.0	小児科/栄養失調/マラリア
マラウイ	186.1	HIV/エイズ/子宮頸がん
チャド	160.0	母子保健/産科/心のケア/栄養失調/はしか
マダガスカル	150.0	栄養失調
コンゴ民主共和国	130.0	暴力被害者支援/国内避難民支援/心のケア/はしか/エボラウイルス病(エボラ出血熱)
ウガンダ	100.0	HIV/エイズ/性暴力被害者支援/リプロダクティブ・ヘルスケア
コートジボワール	76.4	遠隔医療
ブルキナファソ	73.4	国内避難民支援
タンザニア	40.0	難民支援
シエラレオネ	11.1	小児科/栄養失調/マラリア
エスワティニ	10.0	HIV/エイズ/結核
計	4,813.0	
中東		
イエメン	537.6	紛争による負傷者治療/基礎医療/コレラ/はしか/栄養失調
シリア	534.6	紛争による負傷者治療/国内避難民支援
パレスチナ	367.1	紛争による負傷者治療/基礎医療/心のケア
ヨルダン	357.1	難民支援/再建外科/心のケア
イラク	171.3	国内避難民支援/産科/心のケア/外科
イラン	160.0	難民・薬物支援者・ホームレスへの支援
レバノン	153.0	難民支援/リプロダクティブ・ヘルスケア/産科
計	2,280.7	
中南米		
ハイチ	471.1	外科/やけど/暴力・性暴力被害者支援/大地震緊急援助
ベネズエラ	105.6	マラリア/暴力・性暴力被害者支援/心のケア
グアテマラ	104.5	心のケア
ホンジュラス	25.0	暴力・性暴力被害者支援/リプロダクティブ・ヘルスケア/心のケア
メキシコ	8.0	移民支援/暴力被害者支援
計	714.2	
アジア		
バキスタン	218.9	新生児・小児医療/栄養失調/皮膚リーシュマニア症
バングラデシュ	150.0	難民支援/リプロダクティブ・ヘルスケア/性暴力被害者支援
フィリピン	120.0	国内避難民支援/台風緊急援助
マレーシア	111.1	心のケア
ミャンマー	100.0	HIV/エイズ/結核/国内避難民支援
カンボジア	60.0	C型肝炎
アフガニスタン	59.7	産科/栄養失調/外科/結核/はしか
インド	7.9	結核/心のケア/HIV/エイズ/性暴力被害者支援/C型肝炎
計	827.5	
オセアニア		
バブアニューギニア	220.0	結核
計	220.0	
総計	8,855.5	

* オペレーション組織での経費を含みます。

付表2. MSF日本による2021年度の使途指定寄付の配分先

2021年、MSF日本は使途指定寄付として、下記の2.8億円を受け付けました。

使途指定内容	金額(百万円)	配分された国と地域
新型コロナウイルス感染症危機対応募金	184.7	インド、アフガニスタン、レバノン、ホンジュラス、マリ、パレスチナ、コートジボワール
「緊急チーム」募金	94.1	イエメン、中央アフリカ共和国、ハイチ、パレスチナ
総計	278.8	

財務報告(主要財務諸表)

Financial Reports (Major Financial Statements)

*MSF日本の財務諸表の詳細は公式ウェブサイトでご覧いただけます。

Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

正味財産増減計算書

自 2021年1月1日 至 2021年12月31日

(単位:円)

科目	当年度		前年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減比
I. 一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
(1) 経常収益						
① 寄付収入(財務諸表注記1(3)参照)	11,170,418,816	100.0%	13,050,103,455	100.0%	△ 1,879,684,639	△14.4%
一般個人寄付	10,434,880,219	93.4%	11,539,600,859	94.4%	△ 1,104,720,640	△9.6%
一般法人寄付	656,981,839	5.9%	1,424,682,326	5.0%	△ 767,700,487	△53.9%
その他団体寄付	78,556,758	0.7%	85,820,270	0.6%	△ 7,263,512	△8.5%
② 助成金等による収入	750,732,410		806,586,772		△ 55,854,362	△6.9%
外務省国際機関等拠出金	-		279,527,952		△ 279,527,952	△100.0%
他のMSFからのグラント	750,732,410		527,058,820		223,673,590	42.4%
③ その他の収入	6,361,028		13,234,340		△ 6,873,312	△51.9%
アソシエーション会費収入	536,931		758,400		△ 221,469	△29.2%
利息収入および評価益等	5,824,097		12,475,940		△ 6,651,843	△53.3%
経常収益 合計	11,927,512,254		13,869,924,567		△ 1,942,412,313	△14.0%
(2) 経常費用(財務諸表注記1(6)参照)						
ソーシャル・ミッション(①+②+③+④+⑤)	9,485,403,525	82.7%	11,078,389,799	83.5%	△ 1,592,986,274	△14.4%
① 援助活動費	8,855,453,542	77.2%	10,521,763,892	79.3%	△ 1,666,310,350	△15.8%
人道援助プログラム支援金(財務諸表注記10参照)	8,855,453,542		10,515,859,451		△ 1,660,405,909	△15.8%
その他の人道援助活動費	-		5,904,441		△ 5,904,441	△100.0%
② オペレーション・サポート・プロジェクト	81,064,702	0.7%	70,016,073	0.5%	11,048,629	15.8%
人件費	44,178,118		49,283,467		△ 5,105,349	△10.4%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	36,886,584		20,732,606		16,153,978	77.9%
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務	132,215,878	1.2%	136,664,757	1.0%	△ 4,448,879	△3.3%
人件費	83,318,528		80,533,955		2,784,573	3.5%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	48,897,350		56,130,802		△ 7,233,452	△12.9%
④ アドボカシー活動費	29,321,904	0.3%	19,335,706	0.1%	9,986,198	51.6%
人件費等	29,321,904		19,335,706		9,986,198	51.6%
⑤ 広報活動費	387,347,499	3.4%	330,609,371	2.5%	56,738,128	17.2%
人件費	109,598,695		85,059,772		24,538,923	28.8%
ニュースレター・イベント等による広報活動費	181,883,120		165,438,874		16,444,246	9.9%
業務委託手数料等	59,298,173		47,302,397		11,995,776	25.4%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	36,567,511		32,808,328		3,759,183	11.5%
募金活動費	1,781,002,410	15.5%	1,966,949,938	14.8%	△ 185,947,528	△9.5%
人件費	176,405,827		171,224,327		5,181,500	3.0%
ファンドレイジング・キャンペーン費	1,176,611,224		1,346,362,480		△ 169,751,256	△12.6%
業務委託手数料およびシステム関連費	243,831,501		226,111,155		17,720,346	7.8%
通信および書類等発送費	71,103,979		79,691,377		△ 8,587,398	△10.8%
印刷費	23,475,436		25,086,417		△ 1,610,981	△6.4%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	89,574,443		118,474,182		△ 28,899,739	△24.4%
マネジメントおよび一般管理費	207,851,775	1.8%	225,477,099	1.7%	△ 17,625,324	△7.8%
人件費	136,613,296		151,029,582		△ 14,416,286	△9.5%
アソシエーション関連経費(人件費を除く)	4,784,948		7,984,290		△ 3,199,342	△40.1%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	66,453,531		66,463,227		△ 9,696	△0.0%
その他海外向け支援金等	441,367,989	-	414,766,886	-	26,601,103	6.4%
DNDiへの支援金	29,873,256		28,094,859		1,778,397	6.3%
必須医薬品キャンペーン支援金	36,008,365		32,780,212		3,228,153	9.8%
MSFインターナショナル事務局経費	184,026,918		157,565,381		26,461,537	16.8%
MSF韓国事務所活動支援金	191,459,450		196,326,434		△ 4,866,984	△2.5%
経常費用 合計	11,915,625,699	100.0%	13,685,583,722	100.0%	△ 1,769,958,023	△12.9%
一般正味財産当期増減額	11,886,555		184,340,845		△ 172,454,290	-
一般正味財産期首残高	1,175,478,320		991,137,475		184,340,845	-
一般正味財産期末残高	1,187,364,875		1,175,478,320		11,886,555	-
II. 指定正味財産増減の部						
1. 使途指定寄付金受入額	279,210,576		3,087,992,427		△ 2,808,781,851	-
2. 一般正味財産への振替額	279,210,576		3,120,765,784		△ 2,841,555,208	-
指定正味財産当期増減額	-		△ 32,773,357		32,773,357	-
指定正味財産期首残高	-		32,773,357		△ 32,773,357	-
指定正味財産期末残高	-		-		-	-
III. 次期繰越正味財産期末残高	1,187,364,875		1,175,478,320		11,886,555	1.0%

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

貸借対照表

2021年12月31日現在

(単位:円)

科目	当年度		前年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減比
I. 資産の部						
1. 流動資産						
現金および預金	2,998,662,913		3,551,329,306		△ 552,666,393	△15.6%
未収入金(財務諸表注記6参照)	367,281,098		344,035,419		23,245,679	6.8%
前払費用	13,235,882		10,477,275		2,758,607	26.3%
立替金	-		1,125,398		△ 1,125,398	△100.0%
その他流動資産	1,244,316		31,533,949		△ 30,289,633	△96.1%
流動資産合計	3,380,424,209		3,938,501,347		△ 557,777,126	△14.2%
2. 固定資産						
建物附属設備	-		8,952,589		△ 8,952,589	△100.0%
事務用什器・備品	23,996,851		33,645,255		△ 9,648,404	△28.7%
ソフトウェア	43,026,623		14,208,491		28,818,132	202.8%
長期差入保証金等	41,689,540		41,589,540		100,000	0.2%
固定資産合計	108,713,014		98,395,875		10,317,139	10.5%
資産合計	3,489,137,223		4,036,897,222		△ 547,454,122	△13.6%
II. 負債の部						
1. 流動負債						
未払金	2,250,998,631		2,802,255,324		△ 551,256,693	△19.7%
預り金等	387,717		9,554,778		△ 9,167,061	△95.9%
流動負債合計	2,251,386,348		2,811,810,102		△ 560,423,754	△19.9%
2. 固定負債						
退職給付引当金(財務諸表注記9参照)	50,386,000		49,608,800		777,200	1.6%
固定負債合計	50,386,000		49,608,800		777,200	1.6%
負債合計	2,301,772,348		2,861,418,902		△ 559,646,554	△19.6%
III. 正味財産の部						
指定正味財産	-		-		-	-
一般正味財産	1,187,364,875		1,175,478,320		11,886,555	1.0%
正味財産合計	1,187,364,875		1,175,478,320		11,886,555	1.0%
負債および正味財産合計	3,489,137,223		4,036,897,222		△ 547,759,999	△13.6%

*MSF日本の財務諸表の詳細は公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 財務諸表の作成基準

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産 定額法によっている。

耐用年数

建物附属設備および什器 3～5年

器具備品およびビデオ機器 3～15年

②ソフトウェア 定額法によっている。

耐用年数 3～5年

(3) 収益の認識

寄付収入は原則として、現金主義に基づき認識している。

現物寄付の扱い

MSF日本は金銭以外にも、現物寄付として、医薬品、ソフトウェアの支援を受けている。これらの現物寄付は取得時に合理的に価値を見積もり、「寄付収入」として認識し、事業供用時に費用を計上している。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

(6) 経常費用について

費用については主要な活動別に区分して表示している。

①ソーシャル・ミッション

人道援助活動費用、活動のためのスタッフ募集等、医療および研究・開発、広報およびアドボカシー費用など活動をサポートする費用

②募金活動費

③管理部門費

④その他MSF海外オフィス費用及び必須医薬品キャンペーン・新薬開発イニシアティブへのサポート費用

2. 基本財産および特定資産の増減額

該当事項はない。

3. 基本財産および特定資産の財産等の内訳

該当項目はない。

4. 担保に供している資産

該当事項はない。

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当年度末残高
建物附属設備	51,494,334	51,494,334	-
事務什器備品	99,457,346	75,460,495	23,996,851
什器	22,507,931	20,640,378	1,867,553
器具・備品	70,435,786	48,306,488	22,129,298
ビデオ機器	6,513,629	6,513,629	-
ソフトウェア	114,684,458	71,657,835	43,026,623
総 計	265,636,138	198,612,664	67,023,474

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収入金	364,188,420	-	364,188,420
総 計	364,188,420	-	364,188,420

7. 保証債務等の偶発債務

該当事項はない。

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
経常収益への振替額	279,210,576
総 計	279,210,576

9. 退職給付引当金

(1) 採用している退職給付制度の概要

内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務およびその内訳

退職給付債務 50,386,000円、退職給付引当金 50,386,000円

(3) 退職給付費用

1,866,439円

10. 当年度の人道援助プログラム支援金の配分内訳

(単位:円)

	国内支援者からの寄付	MSF韓国からのグラント	プログラム支援金合計
MSFフランス	4,987,800,000	542,453,542	5,530,253,542
MSFスペイン	1,662,600,000	-	1,662,600,000
MSFスイス	415,650,000	-	415,650,000
MSFオランダ	415,650,000	-	415,650,000
MSFベルギー	415,650,000	-	415,650,000
MSF WaCA	415,650,000	-	415,650,000
総 計	8,313,000,000	542,453,542	8,855,453,542

11. 重要な後発事象

該当事項はない。

皆さまのご支援、ありがとうございました

2021年、国境なき医師団(MSF)日本は、39万3157人の個人、8427の企業・団体の皆さまからご支援をいただき、世界各地でのMSFの医療・人道援助活動に資金を提供することができました。

個人支援者

秋本 靖匡
浅井 のり子
浅川 嘉富
天谷 雅俊
安藤 鐘八郎
池 淳一
池田 順子
池田 優美子
池本 節子
石川 久子
石戸谷 勝美
石丸 士朗
石渡 昭夫
泉谷 タカ子
市川 信八郎
伊藤 はるみ
井ノ岡 久雄
上田 佳津子
上戸 彩
内田 耕太郎
馬野 明
馬野 政子
櫻本 節子
遠藤 通
太田 建三
太田 勢津子
大西 啓子
岡本 利和
尾上 誠司
角田 義一郎
角谷 馨
笠茂 公弘
鹿島 若枝
加藤 邦俊
川崎 壽江
河住 歌
河田 貞子
河辺 俊雄
岸本 和彦
桐野 直子
久保 喜正
倉地 篤子
後藤 光宏
後藤 滯子
許斐 潤
小松 昭子
才田 博幸
酒瀬川 修
坂本 泰子
佐藤 幸雄
真田 節彦

佐野 孝子
佐味 壮一
柴田 雅秀
柴野 信子
島田 幸一郎
嶋田 千恵子
島田 智恵子
趙 鏞到
新開 敦子
杉山 茂次郎
鈴木 巖
鈴木 千枝子 (PICO)
鈴木 美佐子
瀬村 隆治
千貫 菊子
仙石泰山老師を偲ぶ一同
田井 光子
高尾 由紀
高藤 繁
孝橋 秩彦
瀧川 清統
竹内 博
竹内 美恵子
田村 俊郎
千葉 雅史
千葉 弘子
東松 泰志
中里 美紀江
中野 美穂子
野中 一
野村 愛
花畑 潔
濱田 仁美
林 暁兵
原田 宏子
東 淑子
平尾 昭子
福岡 顯
福田 馨
福田 喜蔵
福田 まさ彥
藤田 健二
藤田 久元
藤原 裕美
本坊 浩子
町田 明美
三浦 達朗
水上 明子
満川 博美
宮本 和彦
村田 純治

目澤 民雄
森崎 歳章
安田 管子
山口 俊明
山田 淳子
山邑 陽一
山本 加奈子
湯川 攝子
湯田 富岳
葉 國豊
吉岡 正毅
若林 園子
渡辺 忠

※大口の寄付をいただいた個人支援者さまのうち、謝辞掲載のご承諾をいただいた方のお名前を掲載しております。(五十音順、敬称略)

支援企業・団体

株式会社カタログハウス
株式会社フィネス
一般社団法人RTA in Japan
RTA in Japan 2021イベントを通じての支援者一同
無敵時間
株式会社大和証券グループ本社
大和証券株式会社
野村ホールディングス株式会社
野村グループ 役職員有志一同
日本郵船株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社みずほ
セイコーウオッチ株式会社
株式会社プレーリードッグ
株式会社シグマ
株式会社セゾン情報システムズ
阪神動力機械株式会社
旭エンジニアリング株式会社
COBLIN株式会社
G.reform株式会社
元 フレーベル館 労働組合
フォーク株式会社
株式会社ベネフィット・ワン
リンベル株式会社
株式会社エポスカード
株式会社オフィス・カラーサイエンス
全国友の会
公益財団法人全国友の会振興財団
汽罐部品製造株式会社
ヤマギシズム生活別海実頭地農事組合法人
株式会社木村洋行
一般社団法人田代基金
株式会社サムシングエルス

ヤフー株式会社
株式会社ジェーシービー Oki Dokiポイントプログラム
マスターマインドコンサルティング合同会社
株式会社内藤建築事務所
Assurant
グーグル合同会社
l'oro株式会社
アビデ株式会社
株式会社アイネックス
株式会社オリエンタルランド
一燈国際特許事務所
株式会社サンプラント
株式会社エフワン
朝日精工株式会社
株式会社Thousand Ventures
八海醸造株式会社
株式会社佐藤製作所
ベン株式会社
金氏高麗人参株式会社
エムスリー株式会社
株式会社ゴールドウイン
宗教法人隆崇院
株式会社名優
大須賀技建株式会社
有限会社アーク アソシエイツ
株式会社小原工業
ユニオンモーター株式会社
株式会社フライトワン
大産住宅株式会社
八千代電設工業株式会社
株式会社テムテック研究所
小華薬品株式会社
株式会社マカベ
丸中製菓株式会社
三ツ木建設工業株式会社
株式会社和泉エンジニアリングサービス
一般社団法人シェア基金
伊藤忠プラスチック株式会社
株式会社霧島エッグ
株式会社林家族
オリコグループ社会貢献ファンド
株式会社 CGSコーポレーション
名古屋モザイク工業株式会社
株式会社高山ジャパン
京セラ労働組合
株式会社ベルウェール渋谷
株式会社コンセプトアンドデザイン
株式会社グランド・ワン
いずみや不動産株式会社
兼一薬品工業株式会社
一般財団法人東京ローンテニスクラブ
株式会社アップルツリーファクトリー
社会保険労務士法人ジャパン・パーソナル・サポート
株式会社スピック
マルカワみそ株式会社
公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団
公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
前田歯科

Lucifer research株式会社
有限会社マル英商事
三井住友トラストクラブ株式会社
株式会社GOESWELL
メドピア株式会社
豊田合成労働組合
株式会社HOG
三井物産株式会社
TMコミュニケーションサービス株式会社
株式会社ジャックス
東亜物産株式会社
株式会社ハウスパートナー
株式会社三
株式会社稲葉電機
医療法人社団 當銘医院
株式会社シオン
株式会社日産フィナンシャルサービス
有限会社木場工業所
株式会社日本財託
近喰診療所
株式会社エムステージ
医療法人社団至厚会 勝又整形・形成外科医院
株式会社JMDC
株式会社ワールドアセット
医療法人社団久本皮ふ科医院
株式会社 マクロミル
株式会社プロテックエンジニアリング
小林興業株式会社
マルコ工業株式会社
株式会社消防試験協会
森永乳業株式会社
森乳スマイル倶楽部
ACJ株式会社
株式会社清光社
医療法人松風会
株式会社コーラルヘルスケア
株式会社福岡銀行
株式会社ゼネラルアサヒ
イクダ空調工業株式会社
医療法人宗和
医療法人緑明会
みつわ工業有限会社
アークシステムワークス株式会社
宗教法人 菩提庵
フルテック株式会社
クリーンエネルギー株式会社
株式会社ジャックス
株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社魚はん
前田不動産株式会社
株式会社シンワ
株式会社宝機材
株式会社阪神電業社
株式会社ケイテック
株式会社ツチヨシアクティ
株式会社不二機販
株式会社ソーゴー
一般財団法人世界聖典普及協会

株式会社コスモホーム
 有限会社稲垣工業所
 株式会社三和製作所
 株式会社ファンキー・ジャム
 ケイヒン株式会社
 レイシス合同会社
 株式会社デライト
 リポーン・テクノス株式会社
 ジオバック株式会社
 株式会社日本シューター
 有限会社ケーワイ電設
 有限会社ホワイト企画
 株式会社 三幸ランドプランニング
 増幸産業株式会社
 3909合同会社
 株式会社渡辺土木
 医療法人結想会 産婦人科 ゆいクリニック
 株式会社モリサワ
 株式会社 アルファ
 トブトリ株式会社
 株式会社グルッポタナカ / 株式会社IZA
 清水鋼鉄株式会社
 株式会社トライネット
 中央硝子株式会社
 株式会社Meow on the Bridge
 株式会社トモ・コーポレーション

※大口の寄付をいただいた企業・団体のお名前を掲載しております。

企業・団体・個人のご支援方法・事例

国境なき医師団(MSF)日本の総収入の93.7%は民間の皆さまからの寄付で成り立っています(2021年実績)。
 ご支援方法は、一般の寄付に加えて、さまざまなプログラムからお選びいただけます。

MSFコーポレートサポーター

MSFコーポレートサポーターとは、MSFの活動に対して、企業・団体としての賛同表明と、年間500万円以上の継続的なご支援、さらに社会に向けた活動紹介にご協力いただくプログラムです。

株式会社シグマ

弊社は「総合映像企業」としてものづくりを通じ、豊かな社会の創造、優れた文化の醸成、世界平和に貢献することを目指すとともに、社員一人ひとりが一企業市民として社会的責任を果たしたいと考えてまいりました。

MSFは営利を目的としない医療・人道援助活動を行っており、その中立性と公平性、独立性に基づく理念と写真や映像による広報・教育活動が、「写真は豊かな文化と幸福の希求に根差す」という当社の創業理念と、世界各国で展開している弊社事業活動の実際に鑑みて深く共感できることから、約20年にわたり支援を続けてきました。活動支援プログラム「MSFコーポレートサポーター」を中心に、啓発映像への機材協力や売り上げの一部を寄付させていただくなど、継続的に支援しています。



代表取締役社長
やまき かずと
山木 和人

プロボノ・現物寄付

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
 クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業
 ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所
 モルガン・ルイス&パッキアス外国法事務弁護士事務所
 ウイングアーク1st株式会社
 株式会社セールスフォース・ジャパン
 NHN テコラス株式会社
 株式会社PR TIMES
 株式会社EduLinX
 インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社
 住商アーバン開発株式会社

※専門性の高いサービスや、施設の一時提供などをいただいた企業のお名前を掲載しております。

株式会社プレーリードッグ

弊社は、いまも100年後も存在価値のある企業であり続けるために、企業理念である「地球愛」に基づき、サステナブルな社会の実現に向けた取り組みを行っています。

世界中では紛争や戦争が繰り返されている地域があり、また数多の自然災害も発生しております。

一企業としてできることは微力ではありますが、人びとに喜ばれる商品を作り、その商品を通じて日本の、そして世界の平和へとつながればという思いで、日々製品作りに取り組んでいます。「世界のどこかで誰かの心に届く商品を作り続ける」。それにより社会の平和に貢献することを目指し、MSFにマスク&マスクケースおよびエコバッグの売り上げの一部を寄付しています。



代表取締役
まつおか よしゆき
松岡 良幸

商品・サービスを通じた寄付

各企業の商品・サービスなどの販売活動を通じてご支援いただくプログラムです。企業理念やブランド力を生かし、ビジネスの成長と社会貢献の両立が可能です。

株式会社カタログハウス

カタログ雑誌『通販生活』では、コロナ禍でさらに過酷な状況下にある途上国の子どもたちを支援したいという思いから、2021年4月より「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に比例して売上げが伸びる商品」の売上げの5%を寄付いただいています。



セイコーウオッチ株式会社

2021年はセイコー創業140周年、MSF設立50年に当たり、これを記念してセイコー アストロン 国境なき医師団 コラボレーション限定モデルを製造・販売し、店頭小売価格の5%を寄付いただきました。



大和証券株式会社

お客様の資産運用と社会貢献活動を無理なく両立できる「ダイワ社会貢献ラップ」サービスを通じて、お客様からはダイワファンドラップの1年間の資産評価増加額の5%を、大和証券株式会社からはその運用成果に関わらずお客様からいただいたファンドラップ・フィーの5%を、毎年寄付いただいています。



イベントを通じた寄付

イベントを開催し、主催者からの寄付、参加者からの寄付やグッズ販売の収益などをご支援いただくプログラムです。イベントを行いながら、社会貢献もしていただけます。

一般社団法人RTA in Japan / 無敵時間

RTA in Japanは、日本で年2回夏と冬に開かれる大規模RTA (リアルタイムアタック)ゲームイベントです。RTAが好きな人たちの結束を高め、RTAの発展と促進を図るとともに、社会貢献にも取り組んでいます。協賛金や配信プラットフォームからの収益、関連グッズからの寄付に加えて、イベント視聴者からの寄付など複数の仕組みによりご支援いただきました。



株式会社エイチ・アイ・エス

2021年7月22日~23日の24時間を世界30カ国から生中継で楽しめる特別企画「世界30か国以上周遊! 24時間ライブツアー」が開催され、ツアー料金の50%を寄付いただきました。



マッチングギフト

社員個人のご寄付やアクション (ウォーキングやボランティア活動など) に対して所属する企業がマッチング寄付をすることにより、企業の社会貢献活動を促進するプログラムです。社員と企業が力を合わせて社会貢献活動に取り組むことにより、インパクトが大きくなることはもちろん、社内の一体感も高まります。

サントリーホールディングス株式会社

グローバル健康経営×サステナビリティの取り組みとして、世界のグループ社員全員を対象に「One Suntory Walk」を実施。1カ月間、参加者が一体となって健康意識を高め、運動習慣を身に付けることができるウォーキングイベントです。参加者1人につき10米ドルをマッチングして寄付していただきました。

日本郵船株式会社

社員有志で構成されるNYKボランティアサポーターズと企業の健康経営推進「POPEYEプロジェクト」がコラボレーションし、「チャリRUN」(チャリティRUN+WALK+α)キャンペーンを実施。社員からの参加費に加えて、運動量に応じた金額を企業からのマッチングとして寄付していただきました。

ポイント寄付

クレジットカードのポイントなど各企業のポイントプログラムを通じてご支援いただくプログラムです。ポイントの有意義な使い方として、また気軽に寄付できることから、幅広い層に人気です。

●事例紹介
Tポイント募金
JCBのOk! Dokiポイントプログラム
エポスカードでの寄付
ジャックス ラブリーポイント

寄付型自動販売機

缶やペットボトル飲料の売上げの一部が寄付となるチャリティー自動販売機。敷地内に設置していただける方を随時募集しています。

●事例紹介
寄付型自動販売機普及協会
設置をご検討いただける方はこちらまでご相談ください。
電話:0120-937-650
http://kjf.or.jp/



古い物を生かす寄付

家庭で使わなくなった品物の買い取りサービスを通じた寄付です。不用品の有意義な生かし方として、また送料無料で気軽に寄付できることから、多くの方にご利用いただいています。

●事例紹介
お宝エイド
切手、はがき・年賀状、金・貴金属、ブランド品、骨董品等の買い取りを通じた寄付。
ブックオフ キモチと。
本やCD・DVD・ゲームなどの買い取りを通じた寄付。

学校・地域・サークルの募金活動

学校や地域、趣味のサークル、有志の集まりなどで実施するチャリティー・イベントや募金活動を通じてご支援いただくプログラムです。さまざまなアイデアで、募金活動を展開して下さる方が全国にいます。

企業・団体によるご支援の窓口を設けています

企業・団体としてのご支援に関するご相談は、こちらまでお寄せください。

●メール:corporate@tokyo.msf.org ●電話:0120-999-199 (平日9:00~18:00 土日祝日・年末年始休業 通話料無料)

ご遺産からの寄付

2021年には、42人の方から遺贈寄付を、94人の方から相続財産からの寄付を、33人の方からお香典・供花代からの寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。お一人お一人から託していただいた思いをしっかりと受け止め、世界のさまざまな場所で助けを必要としている人びとへの医療・人道援助活動のために大切に使用させていただきます。

遺贈寄付

遺言により、遺産の一部または全てを特定の人に贈ったり、公益団体などに寄付したりすることを遺贈と言います。遺贈寄付によって、大切な遺産を医療・人道援助活動に役立てていただくことができます。

相続財産からの寄付

相続された財産を寄付することによって、故人の優しさを医療・人道援助を通じて「つぎの命」として生かしていただく方法です。相続税の申告期限内に寄付を完了した場合、寄付した財産には相続税がかかりません。

お香典・供花代からの寄付

葬儀に寄せられた香典や供花代のお返しに代えてMSFに寄付をし、会葬者の皆さまへは寄付の報告をもってお礼とする方法です。MSFから、香典・供花代をくださった方々へのお礼状をご用意させていただきます。

Staff Introduction

遺贈寄付専任担当をご紹介します。

遺言書の作成方法から注意すべきポイントまで、遺贈寄付について詳しくまとめた資料をご用意しています。また、お電話で個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください。



おぎの かずのぶ
荻野 一信

ご遺贈を検討される過程では、ご不安なことも出てくるかと存じます。ぜひお気軽にご相談ください。お待ちしております。



いまお れいこ
今尾 礼子

前を向いて生き方を考えている方々からお話を伺えることをいつもうれしく思っています。どうぞお気軽にお問い合わせください。

ご相談は
お気軽に

遺贈寄付ご相談ダイヤル

03-5286-6430

(平日10:00~17:00) 担当: 荻野・今尾

メール: legacy@tokyo.msf.org

2021年、国境なき医師団(MSF)日本事務局では以下のキャンペーンやイベント、活動資金の調達を実施しました。

MSF設立50年キャンペーン「私たちは声を上げる。」



2021年、MSFは設立50年を迎え、世界の人道危機や、MSFの医療・人道援助活動についての理解促進を目的とした広報キャンペーンを展開しました。キャンペーンは「私たちは声を上げる。」を共通スローガンに、特設ウェブサイト、団体の活動と信念を表現したコンセプト動画や、さまざまなイベントの開催を通じ、過去、そして現在も続く人道危機に光を当て、困窮する人びとのために国際社会に訴えてきたMSFの姿勢を伝えました。

特設ウェブサイトでは、MSF設立の経緯やノーベル平和賞受賞、エボラウイルス病(エボラ出血熱)対応や医療への攻撃など、MSF

がたどってきた歴史の主な節目を紹介。団体と共に歩んだ関係者のスペシャルインタビューも掲載しました。10月から12月にかけては、世界的に著名な写真家集団「マグナム・フォト」とコラボした写真展や、多方面からゲストを招いた4つのオンライン・イベントを実施しました。



プロモーション期間: 2021年8月11日~12月31日
特設ウェブサイト: www.msf.or.jp/50th/



新型コロナウイルス感染症危機対応募金ご報告

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界規模での感染拡大に伴い、2020年3月に開始した「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」の受付は、日本での資金調達目標2380万ユーロ(約29億円*)に達したため、2021年10月15日に終了しました。ご支援くださった皆さまに改めて御礼を申し上げます。

なお現在も続いている新型コロナウイルス感染症への対応と、感染症拡大の影響に伴うその他の援助活動には、今後は用途を指定しない一般寄付から必要な資金を充当します。

MSF日本での活動資金調達状況

収入 (単位: 百万円)	新型コロナウイルス危機対応募金 寄付入金額	2,893.3
	MSF韓国、MSF米国からのグラント	3.7
	計	2,897.0
寄付者数		延べ135,048

MSF全体での活動資金調達状況

世界35の事務局で資金調達を行いました。

(単位:百万ユーロ)		
収入*2	145.5	※1 1ユーロ=121.9円で換算
国別支出合計*3	153.1	※2 2021年10月時点 ※3 2021年9月時点

MSF全体での活動資金調達および支出に関する最終ご報告は、ウェブサイトでお知らせする予定です。

www.msf.or.jp/news/detail/headline/coronavirus.html

「人道援助 कांग्रेस東京2021 人道援助の未来——真に、「誰一人取り残さない」ために」



日本で人道援助をめぐる諸問題を共に考え、議論を深める場をつくるため、2020年から開催している「人道援助 कांग्रेस東京」。2回目となる2021年は、赤十字国際委員会(ICRC)と共催し、2021年のテーマ「人道援助の未来——真に、「誰一人取り残さない」ために」について語るオープニングセッション、紛争ばっ発から10年がたったシリア、紛争と気候変動、新型コロナウイルス感染症が女性と子どもに及ぼす二次的影響という3つのトピックについてセッションが設けられました。前回に続きオンラインで開催し、日本のほか、国際機関からの代表や、シリア、パキスタンなど世界各地から各テーマの専門家が登壇し、人道援助の現状や課題について活発な議論が行われました。

開催期間: 2021年5月13~14日

ウェブサイト: www.msf.or.jp/congress/

「人道援助 कांग्रेस東京2022」は2022年5月19~20日に開催されました。

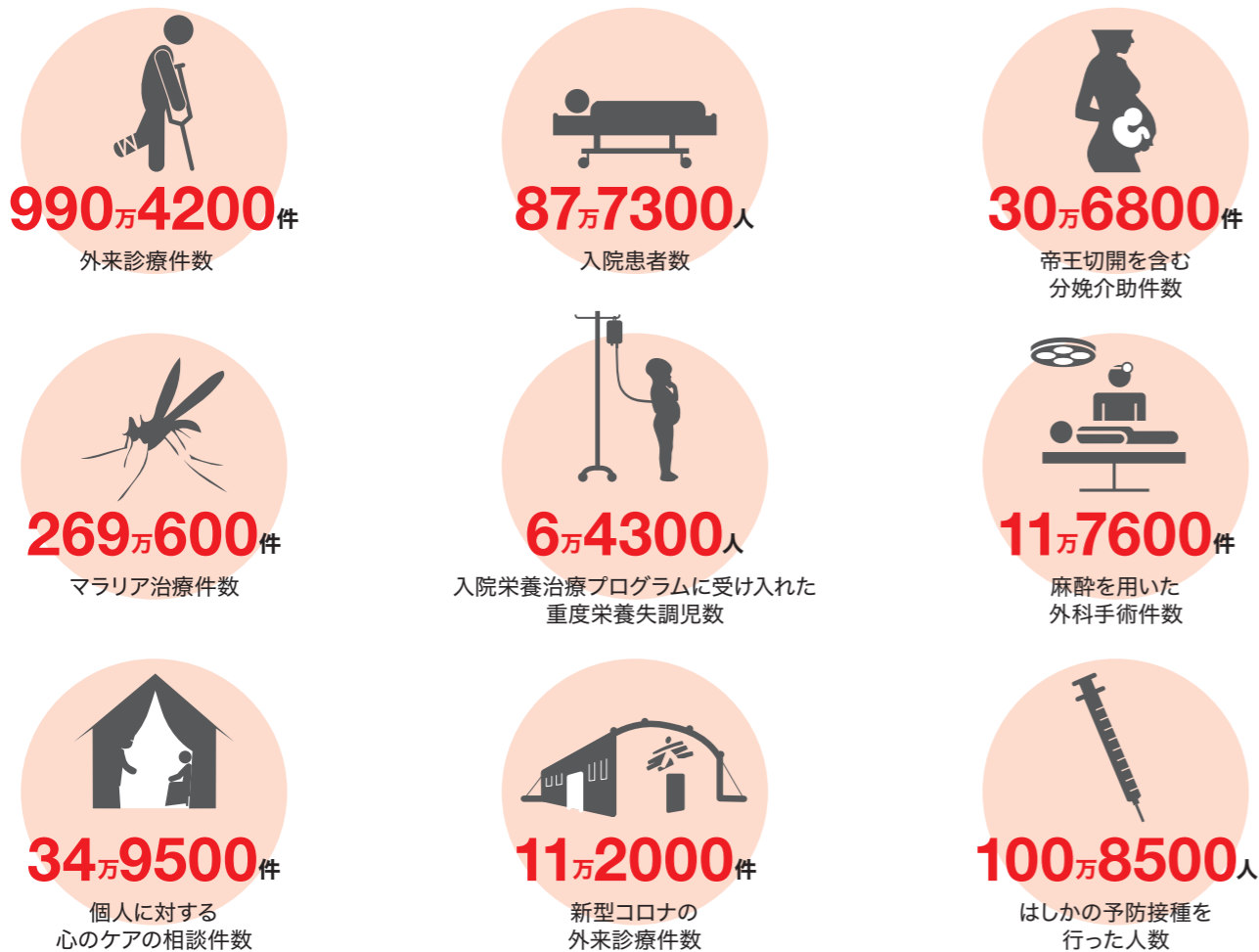


数字で見る活動ハイライト 2020

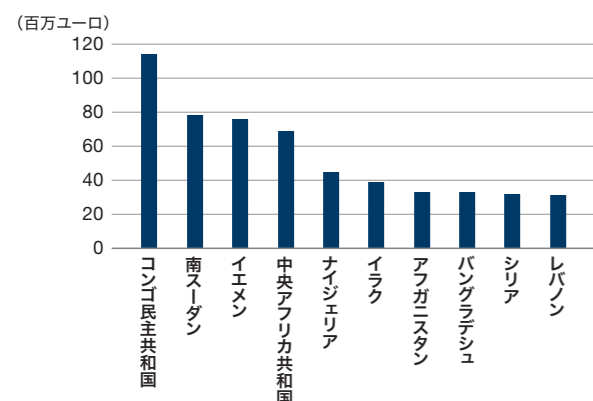
2020年、国境なき医師団(MSF)は88の国と地域でプロジェクトを展開しました。
また、MSF全体の総収入19億180万ユーロの97.2%は、700万人もの個人支援者を中心とする民間からの寄付でした。
全支出16.8億ユーロの80.5%をソーシャル・ミッション費(10ページ参照)が占めました。

※ 22~23ページは、MSF全体の活動を網羅した『国際版活動報告書2020』(英文)の抜粋です。2021年の実績は2022年7月に発表の予定です。

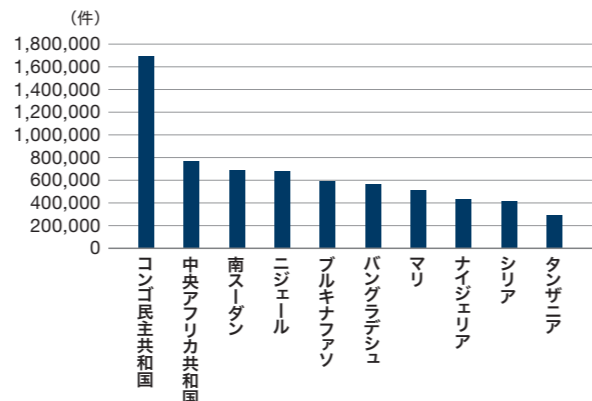
■ 活動実績(一部紹介)



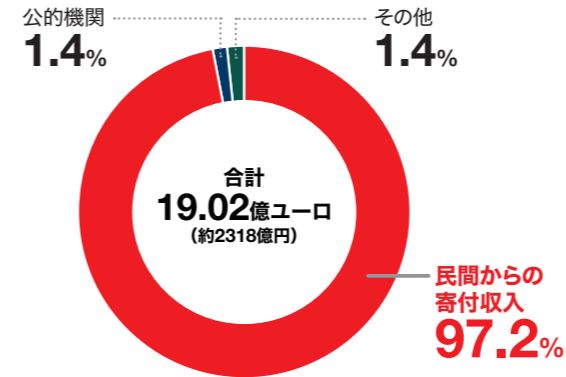
■ 活動規模が大きい10の国 [プログラム支出順]



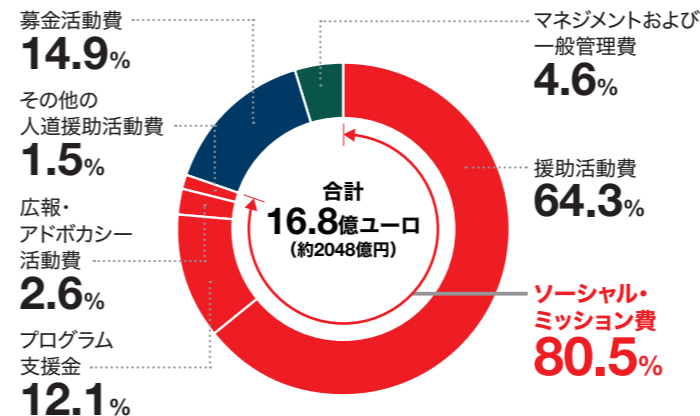
■ 活動規模が大きい10の国 [外来診療件数順]



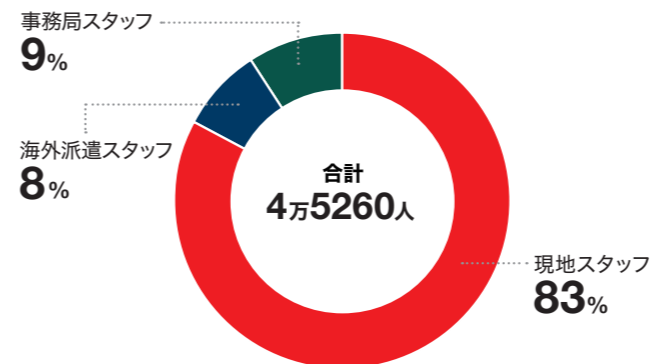
■ 収入の内訳



■ 支出の内訳



■ スタッフの内訳



■ 個人支援者数



理事

- 会長 中嶋 優子 (救急医/麻酔科医)
Yuko Nakajima
- 副会長 久留宮 隆 (外科医)
Takashi Kurumiya
- 高橋 健介 (内科医/疫学専門家)
Kensuke Takahashi
- 専務理事 エリック・ウアネス (元国境なき医師団日本事務局長)
Eric Ouannes
- 会計役 齊藤 哲也 (元国境なき医師団日本事務局長)
Tetsuya Saito
- 理事 ジル・デルマス (疫学専門家)
Gilles Delmas
- キム・テヨン (コーディネーター)
Teayaung Kim
- 小杉 郁子 (外科医)
Ikuko Kosugi
- 空野 すみれ (産婦人科医)
Sumire Sorano
- イサ・カディノン・コナテ (元国境なき医師団オペレーション組織職員)
Issa Kadinon Konate

監事

- 森川 光世
Mitsuyo Morikawa
(コーディネーター/元国境なき医師団日本事務局長)

(2022年3月末現在)

国境なき医師団(MSF)日本は1992年に発足し、1997年にMSFの事務局の一つとして独立組織となりました。1999年に特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都の認証を受け、2002年には認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁の認定を受けました。その後、2012年のNPO法の改正により所轄庁となった東京都から、2013年7月に1度目の、2018年7月に2度目の認定更新を受けています。

活動をご支援ください

国境なき医師団の活動は、皆さまからの寄付で実現しています。
私たちと共に、命を救う力となってください。

寄付の申し込み
資料請求は

0120-999-199
(通話料無料 平日9:00~18:00)
(土日祝日・年末年始休業)

www.msf.or.jp

国境なき医師団日本(認定NPO法人)への寄付は、所得税、法人税などの優遇措置の対象となります。